■おとふけ障がい福祉総合プラン2021の最終評価について

資 料 2

1 具体的な取組の推進状況

施策の区分	施策の方向	自己評価		委員会評価	
		評価	点数	評価	点数
(1)生活支援体制の充実	①さまざまな状況に対応する相談支援体制の確立	B	4	B	4
	②地域生活の場の確保	A	5	A	5
	③必要な障がい福祉サービスの確保	A	5	B	4
(2)自立した生活や社会参加の促進	①子どもの健やかな育成のための支援	A	5	B	4
	②就労支援体制の確立	B	4	B	4
	③所得保障	A	5	A	5
	④社会参加の促進	B	4	B	4
	⑤外出支援の充実	A	5	A	5
(3)誰もが暮らしやすい社会の実現	①権利擁護の推進	B	4	B	4
	②障がいに対する理解の促進	B	4	B	4
	③地域福祉活動の推進	B	4	B	4
	④コミュニケーション手段の充実	A	5	A	5
	⑤防災・防犯対策の推進	A	5	A	5
		平均点	4.5	平均点	4.4
				昨年度	4.4

2 数値目標の進捗状況

数値目標名	自己評価		委員会評価	
	評価	点数	評価	点数
福祉施設入所者の地域生活への移行	B	4	B	4
地域生活支援拠点等が有する機能の充実	A	5	A	5
福祉施設から一般就労への移行	B	4	B	4
障がい児支援の提供体制の整備	A	5	A	5
職場体験事業の利用促進（町独自目標）	C	3	C	3
	平均点	4.2	平均点	4.2
			昨年度	4.2

3 最終評価

自己評価	B	
評価根拠	現状分析	具体的な取組の推進状況については、全て評価A又はBとなっており、概ね順調に推移している。 数値目標の進捗状況については、評価Cの項目が1つあるものの、そのほかは全て評価AまたはBとなっており、一部施策に改善の余地があるものの、おおむね順調に推移している。
	評価理由	現状分析のとおり、具体的な取組の推進状況及び数値目標の進捗状況の両方について、改善の余地は残るものの、計画の達成に向けておおむね順調に推移していると判断したものである。
昨年度評価	B	
委員会評価	B	
評価根拠	現状分析	**自己評価のとおり**
	評価理由	**自己評価のとおり**

抜粋

(5)最終評価基準

評 価	A	B	C	D	E
基 準	計画どおり達成している（達成が確実に見込まれる）	概ね計画どおり達成している（見込まれる）が、取組方法に改善の余地がある	計画の達成が一部に留まり、取組方法の見直しが必要	計画をほとんど達成しておらず、施策の取組方法を全般的に改善すべきである	計画を全く達成しておらず、施策全体の見直しや推進体制の改善が必要